
幸福の色

夏野 狗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸福の色

【Nコード】

N1032S

【作者名】

夏野 狗

【あらすじ】

なんかあれ。

幸福を探している感じ

「こんばんは。月が綺麗な夜ですね」

「おや、あなたも月見ですか」

「ええ」

この夜は、月と星とが綺麗に見える夜だった。

「……あなたはいいですね」

「何がですか？」

「僕とは違ってあなたは、人に好かれそうだ」

「そうですかね？ と首を傾げる相手。」

「私は人に好かれようと好かれまいと、どうでもいいですけどね」

「それはあなたが今の暮らしに困っていないからでしょう？」

「そうかもしれないですね。ですが、あなただって別に人に嫌われているわけではないでしょう」

「そうだったらどれほどいいものか。」

「あなたは食べる物に困っていないでしょう。僕は毎日食べる物にすら困っている」

「おや、それは大変ですねえ」

「所詮、他人事なのだろう。どうしても良さそうな顔をされた。」

「あなたは綺麗でいいですね」

「おや、そうですか？ あなたも綺麗ですよ」

その言葉は、僕にとってもっとも言ってはならない一言だった。

「どこがですか！？ 僕はこんなの嫌だ！ あなたみたいに生まれたかった！」

「まあまあ、落ち着いて下さい。イギリスでは、あなたを見ると幸福になると言われているのですよ」

「僕にイギリスに行けとでも言うんですか」

「はははと、笑う相手。」

「いやいや、違いますよ。そうではなく、必ずしもあなたが人に嫌

われるわけではないと言いたいのですよ」

「……でも此処は日本だ。此処で好かれなきや意味が無い」

「そうですか。……そう、ですね」

僕と彼は、満月の月を見上げる。

「……別に人に好かれなくともいいじゃないですか。生きていけますし」

「……そういう問題じゃないんです。あなたは、自分がどれだけ恵まれているか気付いていない。僕も、その幸せが欲しかった……」

彼は押し黙り、月を見上げてばかりいた。

「——私はそろそろ帰ります。主人が心配してしまうので」

そう言った彼の首から、チリンという綺麗な鈴の音がした。

「そうですか。では」

彼を背を向け、歩き出した。しかし、数歩進んでから足を止めた。

「いつかあなたも、あなたを好きになってくれる人が現れますよ」

「どうも」

慰めにしか聞こえなかった。もしくは哀れみか。

それだけ言うと彼は再び歩き出した。白い、綺麗な色の毛を夜の冷たい風に靡かせながら。

彼は、帰る場所があるという幸せに気付いているだろうか——？

「僕にもいつか、か……」

——現れたらいいなあ。

そう思い、僕もそこから移動することにした。自分の姿が夜の闇に消え入ってしまう、黒色の毛を靡かせて。

——行く宛は無いか、歩こう。

ただ、いつか僕のことを好きになってくれる人が、僕のこの姿を愛してくれる人が現れるまで——。

人間の目から見れば、猫が土管の上でにゃあにゃあ鳴きながら月を見ていたようにしか見えなかっただろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1032s/>

幸福の色

2011年10月8日23時57分発行